

坤櫓の復元設計の考え方

■ 復元の意義および目的

内堀と石垣が400年以上現存する福井城址は、歴史的価値が極めて高く、「県都のシンボル」となり得る大切な歴史資産である。

これまでに、城址西側の御廊下橋や山里口御門の復元整備を進めており、県都の魅力をより一層高めていくためには、福井城址という歴史資産の本質的価値を十分に認識した上で、さらなる磨き上げを行い、発信していくことが必要である。

坤櫓はこれまで復元整備を進めてきた城址西側に位置しており、令和4年度から実施してきた史料・文献調査を踏まえ、史実に基づく復元を行うことにより、城址西側の往時の姿をよみがえらせ、福井城の価値や魅力を高めることを目的とする。

◆ 復元の基本方針

福井城址の歴史的価値を踏まえ、県都のシンボルとなるよう、また、往時の姿を体感できるよう、坤櫓を歴史的・文化的価値を有する建物とするため、往時の規模や構造で史実性の高い復元を基本とする。

なお、復元設計については、建築基準法等の法規制、現在の技術や材料の調達状況、櫓の活用方法や維持管理も考慮して行うものとする。

- ・外 観 往時の規模や構造などを史実に基づき、可能なかぎり復元
- ・内部構造 往時の柱割を基本に、史実に基づく復元を逸脱しない範囲で、バリアフリーに配慮